

各週のレポートの書き方

Prolog の演習は以下のやり方で進める。

- 各週の始めに、レポートとして提出すべき問題を指示するので、その問題を演習時間中に（あるいは時間内にできなかった人は、適宜 “残業” をして）解き、そのレポートを決められた〆切までに提出すること
- その際、作ったプログラムは必ず自分で実行して正しく動くことを確かめ、その実行結果とそれに対する考察も付加すること。

プログラムには必ずコメントを付けて、他人がそのプログラムを読んでも容易に理解できるようにしておかなければならない。Prolog プログラムにおいてコメントを付けるには、次の二通りのやり方がある：

- 各行の先頭に %（パーセント記号）を付ける。正確に言うと、行の % 以降のテキストはコメントと解釈される。
- /*と*/で囲む。それによって囲まれた領域がコメントとして解釈される。

プログラムを提出する際のレポートのテンプレートを次ページに示す。プログラム中で使用する述語の簡単な説明も付けておくこと。また、このようにレポートファイルは、Prolog で実行できる形式で提出して下さい。これはレポートをチェックする時に、実際にプログラムを動かしてみるためです。実行できないファイルは、再提出してもらいます。また、初回提出時には**学籍番号**と**氏名**を間違えて記入した状態で提出することがないようにお願いします。もし、間違った記入をすると**レポートが正確に評価されない場合**があります。

レポートのテンプレート

```
% repXX: 第 XX 回 演習課題レポート
% 提出日: 20??年 X 月 Y 日
% 学籍番号: XXXXXXXXX
% 名前: ○○○○
%
% 練習 X.Y △△関係を解くプログラム (テキスト??? ページ)
% [述語の説明]
% parent(X,Y): X は Y の親である
% father(X,Y): X は Y の父親である
% ...
%
% /* ここから本当の Prolog プログラムを書く */
parent(X,Y) :- father(X,Y) ; mother(X,Y).
...
/*
(実行例)
?- grandparent(taro, X).
X = jiro ?
yes
/
...
/*
(説明, 考察, 評価)
...
/
```